

海外の大学におけるキャンパス整備状況（概要）

これまで、「今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議」（平成20～23年度・平成25～27年度）等や、文部科学省委託事業（平成25年度、平成26年度、平成27年度、令和元年度）において、海外事例調査を実施した。

1. 教育研究施設に関する諸外国の状況

◆研究者や学生同士の交流・協働を生む、様々な空間や仕掛け

研究者や学生の交流・協働を生む空間



図1 MITメディアラボ ラボスペース



図2 MITメディアラボ 交流スペース

○MIT（アメリカ）のメディアラボでは、**ラボスペースを共用**し、豊富な**交流スペース**において、研究者間の交流や学際的な取組を推進。

研究者間の協働を促すオープンラボ



図3 ジェネリアファーム ラボスペース



図4 ジェネリアファーム ラボスペース

○ジェネリアファーム（アメリカ）には大学等から研究者が集う。**オープンラボ形式**で研究機器等を共有。**ラボはガラス張り**で、通り抜け可能なスペースがあり、**交流スペース**を配置。

改修により新たなキャンパスの中心地として再生



図5 マンチェスター大学 ラーニングcommons（外観）



図6 マンチェスター大学 ラーニングcommons（内部吹抜空間）

○マンチェスター大学（イギリス）では、老朽化した学生寮の一部を再利用・転用し、**外部空間や周辺の既存施設と一体**でキャンパスの象徴となる空間を整備した。施設内部には、個人からグループで使える**学修スペース**が多数ある。

学生間の交流を触発する環境



図7 香港大学 ラーニングcommons



図8 香港大学 ラーニングcommons

○香港大学（中国）ではラーニングcommonsを整備。学生中心の学び、**少人数での交流を促す学修環境**を提供。様々なサイズを用意し、**24時間開館**している。

日本の国立大学の多くの研究室は、**老朽化した旧来型の研究棟の中で壁に囲まれて小割**され、**たこつぼ化**しており、研究室・研究分野間の融合やイノベーションが生まれにくい状況にある。上記の諸外国の事例も参考に、**研究者同士の協働**や**学生同士の交流を生む仕掛け**を持つ教育研究施設を整備していくことが求められる。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（概要）

2. 学生寮に関する諸外国の状況

◆学生寮と学修スペースの一体的な整備



図9 シンガポール国立大学 U-Town (外観)



図10 シンガポール国立大学 U-Town (学修スペース)

- シンガポール国立大学（シンガポール）はユニバーシティ・タウン（U-Town）を建設。約3,600人規模の学生寮と学修環境（24時間利用可）を一体的に整備。学生と教員の共同居住環境の提供や多様な国々の学生交流を促しグローバル人材育成に貢献。

◆産学連携施設と一体的に整備



図12 メルボルン大学 メルボルン・コネクト (外観)
©U/University of Melbourne



図12 メルボルン大学 メルボルン・コネクト
(内観 交流スペース)
©COPYRIGHT 2022 MELBOURNE CONNECT

- メルボルン大学（オーストラリア）では産学共同のイノベーション拠点（Melbourne Connect（メルボルン・コネクト））を整備。交流棟と学生寮からなり、交流棟には研究室、実験室、イベントスペース、賃貸オフィスが置かれる。

◆多様な財源の活用



図11 オーストラリア国立大学 学生寮
©ANU

- オーストラリア国立大学（オーストラリア）では、老朽化した学生寮を取壊して新棟を建設。卒業生による個人寄付により整備（New Bruce Hall（右）、Wright Hall（左））。

◆周辺施設との一体的な配置

- 北京大学（中国）ではグローバルヴィレッジを大学に隣接して整備。キャンパスに隣接して、宿舍、会議場、教育施設、レストラン、プール等からなるヴィレッジを整備。
- ケンブリッジ大学（イギリス）では、31あるカレッジで、共住、共修の施設環境を提供。各カレッジでは、宿舍や、コミュニケーションの場である食堂の他、図書館、コンピューター室などの学修施設やスポーツ施設も充実。スーパーバイザーによる個別指導、チューターによる生活指導を実施。
- ニューヨーク州立大学オールバニー校（アメリカ）では、教室、研究室など教育研究スペースを中心とし、その周囲に図書館、食堂、寮などを一体的に配置。寮では75%の学生が生活（H26年当時）。

日本の国立大学においても、留学生との混住寮の整備や、学修スペースとの一体的な整備について、多様な財源を活用しながら実施している例がある。上記の諸外国の事例も参考に、民間資金等も活用しつつ、学修スペースとの一体的な整備や、周辺施設との連携や一体的な配置等、国内外の学生を惹きつけるような環境整備が求められる。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例 1. オーストラリア）

①オーストラリア国立大学（QS：30位）

学生寮
多様な財源の活用



Wamburun Hall 学生寮 外観



（左）Wright Hall 学生寮 外観、（右）Bruce Hall 学生寮 外観

- Wamburun Hall は、500 人収容の学生寮として2017 年2 月に竣工し、2019 年に供用開始。総工費約53 百万AUD（約41 億円）。
- Wright Hall、Bruce Hall は、老朽化した学生寮を取壊して800 人収容の新棟を建設した。2019 年竣工。卒業生である慈善家Graham and Louise Tuckwell 夫妻による1 億AUD（約76 億円）の個人寄付により整備された。

②メルボルン大学（QS：33位）

教育研究施設
産学連携

学生寮
周辺施設と一体的



産学共同拠点であるメルボルン・コネクト



メルボルン・コネクト 交流スペース



Building 125 ラボスペース



Building 125 ラボスペース

- Melbourne Connectは、産学共同のイノベーション拠点として2020 年に竣工。交流棟（precinct）と学生寮からなり、交流棟には研究室、実験室、イベントスペース、賃貸オフィスが置かれている。
- Building125は、複数の学部が利用するため共同利用スペースを有する。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例2. カナダ）

①ブリティッシュコロンビア大学（QS:47位）

教育研究施設
オープン

学生寮
周辺施設と一体的



Orchard Commons 学生寮 外観



Orchard Commons 学生寮 ダイニングホール



Engineering Design Centre
デザイン工学学科の共同作業スペース

- ・ Orchard Commonsは、新学生寮として2017年10月に竣工。総工費90百万CAD（約75億円）。
- ・ Engineering Design Centreは、デザイン工学学科の専用棟として2011年8月に竣工。総工費8.3百万CAD（約7億円）。
- ・ リビングラボラトリ（生きた実験室）の考え方をを用いて、自然と一体にデザインされた公共空間、環境性能の高い建物とインフラ、学生用の住居の拡充などを、キャンパス内で実証的に実現させながら、活気溢れるコンパクトで持続可能なキャンパスとまちを創ろうとしている(1)。

(1)上野武「1-5 キャンパスマスタープランの新たな視点」(日本建築学会『まちのようにキャンパスをつくり キャンパスのようにまちをつかう 大学キャンパス再生のデザイン』2020)

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例3. 中国）

① 北京大学（QS:12位）

学生寮
周辺施設と一体的

- ・グローバルヴィレッジを大学に隣接して整備している。
- ・2018年までに学生数の15%の外国人留学生を呼び込むことを目標として掲げていた。
- ・キャンパスに隣接して、宿舎、会議場、教育施設、レストラン、プール等からなるヴィレッジを整備している。

② 香港大学（QS:21位）

教育研究施設
学修スペース

学生寮
ICT



ラーニング・コモンズ



Lung Wah Street Student Residence 学生寮



©HKU

- ・ラーニング・コモンズは6,000㎡、1,500席あり、24時間開館している。学生中心の学び、少人数でのインタラクティブな学修環境を提供している。
- ・少人数の諸室や25人から100人以上に対応できる様々な規模の教室を77室整備した。
- ・効果的な活用を図るため学生の感性を刺激するような形状・色彩の什器を設置。定期的にスタッフトレーニング、アンケートによる空間・設備の質的向上を図っている(1)。
- ・Lung Wah Street Student Residenceは、800人の学生を収容する学生寮として2012年8月に新設した。
- ・各室に有線LAN、建物内に500のWiFiアクセスポイントを整備している。

(1) 鶴崎直樹, 大幡英亮「3-7 生活環境としてのキャンパス」(日本建築学会『まちのようにキャンパスをつくり キャンパスのようにまちをつかう 大学キャンパス再生のデザイン』2020)

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例4. オランダ）

①デルフト工科大学（QS:61位）

教育研究施設
学修スペース/ICT



古い建物の再生と同時に、中庭に大屋根を架けワークスペースを生み出す

キャンパス外観



モデリング・ホール



BK（Bouw Kund=建築・建設技術）City
オレンジホール

- ・ ICT活用により、学生も教職員もアクティビティに見合った最適の場所を利用することが可能となっている。
- ・ 予約性のフリーアドレスの学修スペース。階段状のボリュームは、レクチャーの際には、客席になり、3層分の教室を内包している(1)。

(1) 安森亮雄, 齋尾直子「世界のキャンパスとまち【6】デルフト工科大学建築学部棟 スーパーリニューアルとマネジメントのしくみ」(日本建築学会『まちのようにキャンパスをつくり キャンパスのようにまちをつかう 大学キャンパス再生のデザイン』2020)

②フロンニンゲン大学（QS:145位）

教育研究施設
産学連携



© Bytesnet

Data Center and Data Lab
企業との共同のためのラボ施設



© Bytesnet



©RUG

Energy Academy Europe
産学官エネルギー研究の拠点



©RUG

- ・ Data Center and Data Labは、ネットワークプロバイダであるオランダ企業 Bytesnet 社のデータセンター機能と大学学生・研究者のデータ教育・研究のためのラボ機能のシナジーを図る施設として整備した。
- ・ Energy Academy Europeは、欧州の産官学エネルギー研究の拠点として整備した。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例5. シンガポール）

①南洋理工大学（QS：19位）

教育研究施設
オープン



©NTU Singapore



©NTU Singapore

Academic Building South

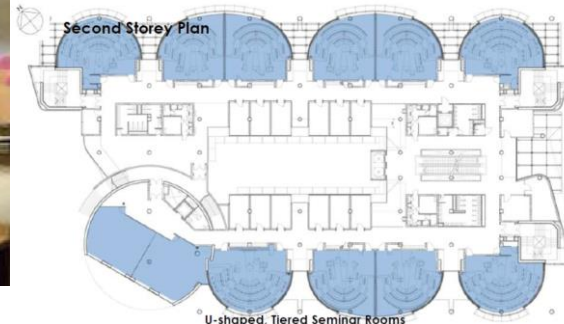
- Academic Building Southは、ナンヤンビジネススクール及び科学・技術・人文の学際融合の教育研究拠点として2022年竣工を予定している。
- キャンパス内2か所に多様な受講形式に対応可能なチュートリアルルーム60室のほか、学生のミーティングルームやカフェを併設したスチューデントアクティブセンターを整備し高質な学習環境を提供している。
- その他の既存施設では、大講義室から少人数対応教室へ移行を進め、聴講型や学生参加型の授業に対応できるよう改修を行っている。

②シンガポール経営大学(QS:561-570位)

教育研究施設
学修スペース/ICT



Uシェイプ教室



平面図

- 少人数・参加型授業への転換（Uシェイプの教室）。学生と教員の距離を近づけ、教員が学生にアプローチできる。教室の近くに、授業後に学生がディスカッションできるよう小部屋を配置。大学としては、全人的な人格形成の教育を重視。

③シンガポール国立大学（QS:11位）

学生寮
学修スペース



学生寮



コンピュータ commons

- ユニバーシティ・タウンは、居住空間（学生寮、約3,600人収容）と教育環境（24時間利用可）の一体化を企図したものであり、学生と教員の共同居住環境の提供や多様な国々の学生交流を促すことでグローバルな人材育成に成功している⁽¹⁾。
- 米国イェール大学と提携し、リベラルアーツを中心とした教育カリキュラムを提供するYale-NUSカレッジを進めている。

(1) 鶴崎直樹, 大幡英亮「3-7 生活環境としてのキャンパス」(日本建築学会『まちのようにキャンパスをつくり キャンパスのようにまちをつかう 大学キャンパス再生のデザイン』2020)

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例 6. アメリカ）

①カリフォルニア工科大学（QS:6位）

教育研究施設
産学連携



©Caltech

Earle M. Jorgensen Laboratory
共同利用スペース

- ・ Earle M. Jorgensen Laboratoryは、エネルギー省との共同研究施設として活用している。

②シカゴ大学（QS:10位）

教育研究施設
交流



©UChicago

The Keller Center
共同スペース

- ・ 公共政策学Harris School の拠点。
- ・ 吹抜けの共同スペースを整備している。

③コロラド大学ボルダー校（QS:317位）

教育研究施設
産学連携



©CU-Boulder

Business and Engineering Expansion: The Rustandy Building
経営学部と工学部の合同施設

- ・ The Rustandy Buildingは、経営学部と工学部の学部学生が共に学び、将来の起業家を育成する環境を備えた施設としている。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例 6. アメリカ）

④ ジャネリアファーム

教育研究施設
オープン/交流



ラボスペース

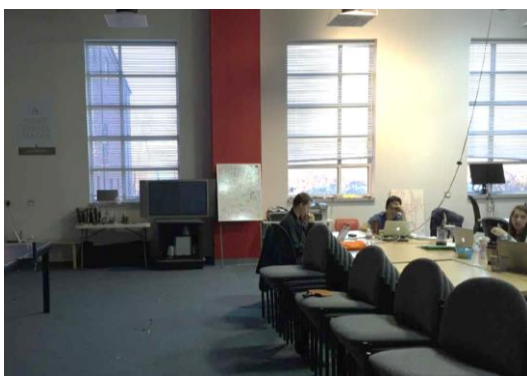


カフェ、交流スペース

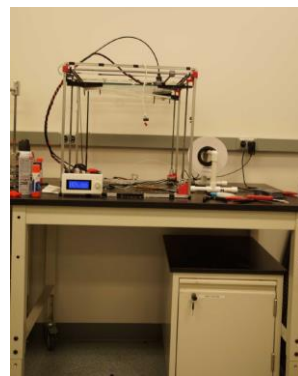
- ・ オープンラボ形式で研究機器等は共有している。ラボはガラス張り、通り抜け可能なスペースとなっている。研究所スタッフが研究を技術的にサポートしている。
- ・ 研究者間の交流を重視し、人が集まりやすく、環境が良い場所に交流スペースを配置している。

⑤ メリーランド州立大学 カレッジパーク校 (QS:164位)

教育研究施設
産学連携/フレキシブル



学習スペース



作業スペース

⑥ ニューヨーク州立大学オールバニ校 (QS:801-1000位)

教育研究施設
学修スペース/交流

学生寮
周辺施設と一体的



学習、交流スペース



学習、交流スペース

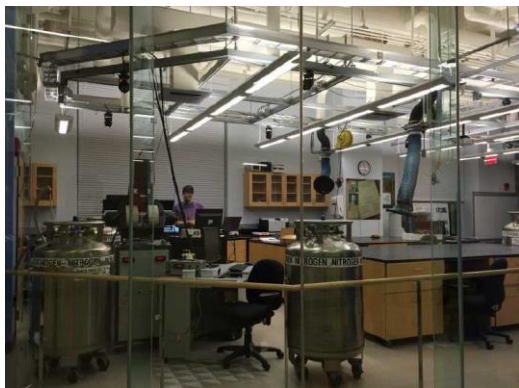
- ・ 学際的な取組を推進するため、様々な活動に対応可能なフレキシブルなスペースを整備している。
- ・ 学生ベンチャーのための作業スペース、工作機器室等を整備・企業と連携し、産学連携による学生の教育も実施している。
- ・ 企業とのパートナーシップを発展させるためのスペースや、様々な規模のスタートアップのためのスペースを整備している。

- ・ 講義室、学習スペース、研究室等をキャンパスの中央に置き、図書館やダイニング等も附属させ、その周りに寮、駐車場等を配置している。
- ・ 学生の75%は寮に入っており、1、2年生は全寮制である。
- ・ リノベーションの際に、階段状の大教室を少人数用に、什器も可動式としたアクティブラーニングに適した教室に改修している。また、キャンパス内に交流スペースを至る所に設けており、学生等が自由に集まれる環境をつくっている。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例6. アメリカ）

⑦マサチューセッツ工科大学（QS:1位）

教育研究施設
オープン/交流



MIT Media Lab ラボスペース



MIT Media Lab 交流スペース

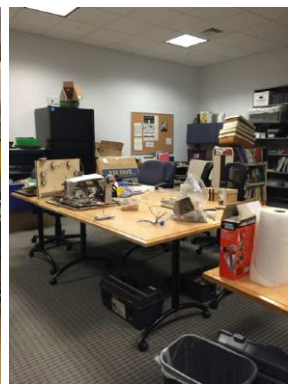


- MIT Media Labでは、常時25以上の研究グループ、350以上のプロジェクトが進行しており、ラボ内の機器は学内で広く供用されている。また、ラボスペースのほかに研究者間の交流を促進するための交流スペースを至る所に配置している。
- 学際的な取組を促進するため、キャンパス・施設の様々な場所に交流スペースを配置している。
- 交流スペースについては、単にスペースを用意するだけでなく、交流を促進するために、食事ができたり、コーヒープレイクができたりするなど、自然と人が集まるような工夫もされている。

⑧オーリン工科大学（QS:-）

教育研究施設
学修スペース

学生寮
周辺施設と一体的



デザインベースの授業を支えるスペース、設備

オンキャンパスの学生寮

- 授業課題のための作業スペース・設備をキャンパス内のいたるところに配置している。
- 技術的スタッフを配置したり、設備をいつでも使えるようにするなど実習のための作業を全面的にサポートしている。
- キャンパス内に学生寮を設置している。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例6. アメリカ）

⑨ イェール大学（QS:18位）

教育研究施設
オープン/フレキシブル



Beinecke Rare Book and Manuscript Library
稀観本を所蔵する図書館



Yale University Art Gallery
美術品を公開するアートギャラリー



Bass Library
リノベーションされた図書館

- ・ 歴史的な建築物の全面的なリニューアルにより、ワークショップを中心とする実践的な学習に適した空間や、資産である美術品、図書の公開を進めるなど、学習空間や研究空間のオープン化が図られている。
- ・ 研究室のデザインについては、異なる専攻の関係や学部生、大学院生が集まったりできるようにオープンなものとしたり、将来的な用途変更等に対応できるように、フレキシブルなものにしたりするなど、デザインルールを設定している。

⑩ ヴァンダービルト大学（QS:199位）

教育研究施設
オープン



©Vanderbilt University



©Vanderbilt University

School of Nursing 改修を行った校舎

- ・ 老朽施設を撤去し共用空間の創出と緑化を行っている。
- ・ 既存の建物の影になる空間に建物を新設・拡張し、空間の有効利用を推進している。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例7. イギリス）

①ケンブリッジ大学（QS:2位）

学生寮
周辺施設と一体的

- ・ 31あるカレッジで、共住、共修の施設環境を提供している。
- ・ 各カレッジでは、宿舎や、コミュニケーションの場である食堂の他、図書館、コンピューター室などの学修施設やスポーツ施設も充実している。
- ・ スーパーバイザーによる個別指導、チューターによる生活指導を実施している。
- ・ 不足している家族連れの学生、研究者等の住宅の整備を予定している。
- ・ 英国外からの人材の増加も視野に入れ、約1,500戸の住宅を整備している。
- ・ 自治体と連携し、北西ケンブリッジに大学の土地を活用して街を整備。コミュニティセンターは大学と市が共同運営を予定している。

②キングス・カレッジ・ロンドン（QS:37位）

教育研究施設
学修スペースフレキシブル



Somerset House East Wing
文化財建造物を改修した学修スペース

- ・ 購入した文化財建造物を活用し、内部改修して学修環境を整備した。
- ・ 可動式の什器を備えた、フレキシブルに使用できる学修スペースを整備しており、講義等にも使用している。
- ・ 地下2階だが、自然光を取り入れた改修を行い、閉塞感を軽減した。

③リヴァプール大学（QS:190位）

教育研究施設
産学連携



©University of Liverpool

©University of Liverpool

Sensor City

市当局等との共同事業のための研究開発拠点

- ・ LJMU（リヴァプール・ジョン・ムーア大学）及び市当局との共同事業としてセンサー技術の研究開発拠点を整備している。
- ・ BEIS（ビジネスエネルギー産業戦略省）及び ERDF（欧州地域開発基金）が支援している。

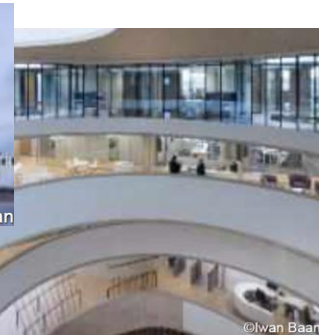
海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例7. イギリス）

④ マンチェスター大学（QS:28位）

教育研究施設
学修スペース

⑤ オックスフォード大学（QS:4位）

教育研究施設
交流



Blavatnik School of Government
公共政策大学院の施設

alan gilbert learning commons 既存施設を改修・増築したラーニング
コモンズ

既存部分と増築部分の間のアトリウム 地域に開放されているカフェ

- 老朽化した建築の一部を解体・改修し、既存建築の躯体（学生寮の食堂部分）を再利用した学修スペースと、外部空間であるキャンパスコモンを整備。これを中心に、隣接する改修した建物、博物館、中央図書館を含めアラン・ギルバート・ラーニング・コモンズと呼ぶ⁽¹⁾。
- 既存施設（学生寮の食堂部分）を改修するとともに一部増築し、学修環境を整備。整備、運営に当たり、学生の意見を取り入れている。また、学生の多くを運営スタッフとしている。

- 公共政策大学院の施設。下層階に映像音響設備完備の教室、レクチャー・セミナー室等、上層階に教員の研究室や職員の事務室、共有スペースを配置している。

(1)上野武「3-2 コモンを再生するキャンパスのリデザイン」(日本建築学会『まちのようにキャンパスをつくり キャンパスのようにまちをつかう 大学キャンパス再生のデザイン』2020)

⑥ シェフィールド大学（QS:96位）

教育研究施設
学修スペース



The Diamond 実習スペース（奥の室はガラス越しに活動が見えるように計画されている）



The Diamond 学科合同利用の大規模実習スペース



The Diamond 周りを実習スペースに囲まれた建物中央部のフリー学修スペース

- 「見る」「見られる」による学修意欲の向上を目指した学科を超えた工学系大規模実習スペースを創出している。
- 手狭になった工学部エリアから工学部学部部分を抜き出し、講義室・実習スペースを新たに整備している。異学科合同の授業にも対応できるよう、大規模な実習スペースを整備している（実務を身に付けるための実習用最新機材がそろっている）。
- 実習スペースはガラス壁であり、それぞれの実習スペースからお互いの実験している様子が見えるため、学修意欲が向上。

海外の大学におけるキャンパス整備状況（事例7. イギリス）

⑦ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（QS:8位）

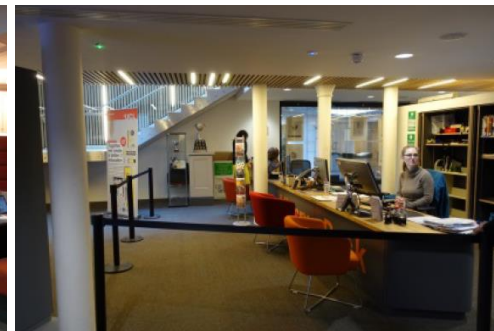
教育研究施設
学修スペース/ICT



Cruciform Hub 学修スペース



Cruciform Hub 学修スペース



Cruciform Hub サービスデスク

- ・ 大学病院を改修して学修スペースを整備。グループワークエリアと個別学習エリアがあるラーニング・commons。
- ・ 医学部キャンパスの中心に位置しているが、ICT 環境の充実など今日的なニーズに応えた学修環境であるため、その他の学部や病院職員の利用も多い。PC が設置されたエリア以外でも持ち込みPC が使えるよう、コンセント付きの机が置かれた学修エリアを整備。
- ・ 学生の意見を踏まえたICT環境と開館時間、サービスを提供。サービスデスクでは、11人のフルタイムスタッフが所属している。

⑧ウォーリック大学（QS:64位）

教育研究施設
学修スペース



Learning Grid
学修スペース



PCクラスター

- ・ 学修スペースを学部生、院生の専用エリアに分けて整備している。各々階別とし、専属の担当を置いて学生を支援している（英国では初めて）。学生のニーズに応え、個別学修スペースを300席整備している。
- ・ 教員の居場所となる区画を整備している。教授法などの書籍の用意があり、模擬授業等が行える。教員同士の交流空間も整備している。

参考文献等

※本資料に載せる事例は、有識者会議等における調査対象や、文部科学省委託事業における調査対象となった諸外国の大学キャンパス整備の事例から選んだ。記載内容はこれらの調査結果に基づいており、一部はその他の参考資料等による。

■有識者会議等における調査

○今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議（平成20年度～）

- ・「知の拠点—我が国の未来を拓く国立大学法人等施設の整備充実」（平成23年8月）

○今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議（平成25年度～）

- ・「米国の大学におけるイノベーション促進等のための施設整備に関する実態調査 報告」（平成26年）
- ・「検討の方向性・課題の整理に関する中間まとめ」（平成26年7月）
- ・「次期国立大学法人等施設整備5か年計画策定に向けた最終報告」（平成28年3月）

■文部科学省委託事業による調査

- ・平成25年度「世界大学ランキング上位校の施設等に関する実態把握調査」
- ・平成27年度「教育の質的転換を図る多様な学修スペースの整備に関する事例」
- ・令和元年度「国内外の大学施設の実態把握及び今後の国立大学法人等の施設整備所要額の試算に関する調査研究」

（その他の参考資料等）

- ・日本建築学会『まちのようにキャンパスをつくり キャンパスのようにまちをつくる 大学キャンパス再生のデザイン』（2020年）

・各大学HP

- | | | |
|---|---|--|
| ・オーストラリア国立大学HP < https://www.anu-edu.jp/ > | ・カリフォルニア工科大学 < https://www.caltech.edu/ > | ・ケンブリッジ大学 < https://www.cam.ac.uk/ > |
| ・メルボルン大学HP < https://www.unimelb.edu.au/ > | ・シカゴ大学 < https://www.uchicago.edu/ > | ・キングス・カレッジ・ロンドン < https://www.kcl.ac.uk/ > |
| ・ブリティッシュコロンビア大学 < https://www.ubc.ca/ > | ・コロラドボルダー大学 < https://www.colorado.edu/ > | ・リヴァプール大学 < https://www.liverpool.ac.uk/ > |
| ・北京大学 < https://www.pku.edu.cn/ > | ・ジェネリアファーム < https://www.janelia.org/ > | ・マンチェスター大学 < https://www.manchester.ac.uk/ > |
| ・香港大学 < https://www.hku.hk/ > | ・メリーランド州立大学カレッジパーク校 < https://www.umd.edu/ > | ・オックスフォード大学 < https://www.ox.ac.uk/ > |
| ・デルフト工科大学 < https://www.tudelft.nl/ > | ・ニューヨーク州立大学オルバニ校 < https://www.albany.edu/ > | ・シェフィールド大学 < https://www.sheffield.ac.uk/ > |
| ・フロンニンゲン大学 < https://www.rug.nl/ > | ・マサチューセッツ工科大学 < https://web.mit.edu/ > | ・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン < https://www.ucl.ac.uk/ > |
| ・南洋理工大學 < https://www.ntu.edu.sg/ > | ・オーリン工科大学 < https://www.olin.edu/ > | ・ウォリック大学 < https://warwick.ac.uk/ > |
| ・シンガポール経営大学 < https://business.smu.edu.sg/mba > | ・イェール大学 < https://www.yale.edu/ > | |
| ・シンガポール国立大学 < https://www.nus.edu.sg/ > | ・ヴァンダービルト大学 < https://www.vanderbilt.edu/ > | |

・QS World University Rankings 2023（QS世界大学ランキング2023年版）

<<https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2023>>

・Laura Mark, "Heatherwick's Singapore Uni Learning Hub opens", Architects' Journal, 10 March 2015

<<https://www.architectsjournal.co.uk/news/heatherwicks-singapore-uni-learning-hub-opens>>